

圧倒的な迫力のある花火大会であった。大輪の光彩が頭上に落ちてくるかのような錯覚に捕らわれた。観客約 40 万人(8 月 2 日の人出、主催者発表)が一万発に酔いしれた約 2 時間であった。

米百俵の故事で一躍有名になった長岡の長岡祭りのハイライトは信濃川河川敷で 8 月 2 日、3 日の両日に亘って行われる大花火大会である。機会在ればと願ってはいたが、今回思い立って家内共々ツワーに申し込み参加した。富田林の某教団の 10 万発を超える花火も、沼津の花火も素晴らしかったが、今回も感動した次第である。小生の住む畑中の極めてローカルな花火には又それなりの風情があり、それはそれで良いものだと思う。



3 尺玉と長生橋（橋長約 850m）のナイアガラ

### ① 長岡花火の歴史と意義

天保年間のその起源を持つと言う長岡花火は、明治 12 年の本格的な花火大会は、愈々隆盛を見るに至ったが、時局が終にそれを許さず昭和 12 年の大会を最後に中断することとなった。昭和 20 年 8 月 1 日に新潟県としては唯一の B29 の空襲を受けた長岡市では、昭和 22 年 8 月 1 日、2 日に長岡市戦災復興祭の名で花火大会を復活させた。市民の共感を得て、昭和 26 年からは、長岡祭りと名称を改めると共に花火を 2, 3 日に変更して現在に至っている。特に今年は昨年 10 月 23 日の中越地震からの復興を祈念するという新たな意義をも付加して新たなスタートをしたと言うべきか。

### ② みどころ

アレンジした旅行会社も花火大会のスポンサーとのことで、日本一の長い河川である信濃川に架かる大手大橋と長生橋の河川敷の中間部分の河川敷に設けられたスペースはゆったりとして最高の場所での見学となった。1 番から 45 番までの番組表に従って、極めて順調に打ち上げられる。

さて、見所は幾つかあるが、それを簡潔に紹介しよう。小生の筆力に余るので機会を得て是非との実視して貰いたいものである。

#### ● オープニングとフィナーレ

橋長 800m 余りの大手大橋に架かるナイアガラはその長さと言ひ、高さと言ひ、見ごたえ十分であり、観客がどよめき、カメラのフラッシュが光り、立ちあがる人あれば見えないぞとの声も飛ぶ。本物の瀑布も斯くやあらん。

フィナーレは、「震災復興祈願花火フェニックス」との名称で、中越地震からの復興を祈念して、市民からの浄財 2000 万円を投じての観客席の全前面を使用しての数箇所からある玉は高く、そして次ぎは中位に、時には低く破裂させる等高さを変化して夜空一杯に色とりどりの光彩の平面を織り成してくれる。中越の復興と花火の華麗さに惜しめない拍手が沸き起こる。

#### ● 正 3 尺玉の弩（ド）迫力

帯広時代に 2 尺玉の打ち上げを見て大きいと驚いたものだが、今回 2 発の 3 尺玉の打ち上げがあった。600m 上空に打ちあげられ、直径 650m の大輪の花を咲かせ、花芯から垂れ下がる光の帯と言うか滴は、川面に届かんばかりである。比較の為に打

ちあげられる尺玉と比較するとその途方もなく大きいことが解る。右手の長生橋のナイアガラと3尺玉との共演は一幅の光のエージェントである。惜しむらくは、安全上止むを得ない（帯広の事故のこともあり・・・）ののだろうが、打ち上げの場所が遠いことか。

● その他の趣向

99連発の打ち上げ、欧州唯一の活火山ベスピアス火山の大噴火を模したスターマインの連続打ち上げ、新作花火の競演、メッセージ花火の打ち上げ、等色々と趣向を凝らした花火の数々、大手大橋と長生橋の間（距離にして幾ら位かは定かではないが・・・）を目一杯を使っての一大光のイベントに時間の経つのも忘れて酔いしれた。

スポンサーに神社が名を連ねているのも面白いものである。

③ ツワーについて

花火が終わってから駐車場に行くまでが大変だ。明治神宮の初詣の人出に辟易した記憶があるが、あの状態を思えば良い。遅々として進まない。ツワーは中年女性のグループや定年後の熟年夫婦らしきグループが多い為に、幸いなことに人込みでも廻りを見渡すことが出来るから有り難い。これもツワーの有効性か。宿泊のホテル到着が深夜になったことを思えば、個人が車で出掛けるのは無謀に過ぎる。残念であるが、孫達も当分無理だ。眠い時に寝て、飲みたければ飲み、唯添乗員の言うことに従順に従っていけば良いのだから、これほど楽なことはない。明日からは東尋坊だという添乗員は纏まりのない集団を率いて行くのだから、大変なのだろう。座る暇もない、立ちっぱなしの様だ。

一方、今回のメインが花火だった為にツワーの他のイベントは付録みたいなものだ。花火大会が強烈過ぎて、他が色褪せて見えるのは当然か。

④ その他

日本人ほど花火が好きな民族は居ないのではなかろうか。各地の夏祭りに花火は欠かせない。また、日本の花火は正に芸術そのものである。日本人は花火を見て何を思うのだろうか。闇夜に一瞬にして輝き、散る、そこに人生と言うか日本人の人生観を感じるのだろうか。